

公表

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名	放課後等デイサービス ソレイユ		公表日		2026年 2月 27日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		・個室や課題をする空間もあり、利用定員に対して通している。 ・活動スペースについては、完全ではないがレールカーテンで区切ることはできる。	・活動スペースについても区切ることができるようにしたいと思う。 ・完全にわけるとはできないため、パーテーションで仕切る等の工夫をしている。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	3	・配置基準を遵守した上で、その日の利用人数に応じて有休を使う等、多すぎず少なすぎずを維持できていると思う。 ・添乗は必ず置いている。室内の環境も、職員が2人以上で見守る体制を取っている。	・全員が出勤できない日もあり、業務内容も含めて、その時々に応じて、人員配置をしていく。 ・職員の面については、全員が資格（保育士、児童指導員、強度行動障がい研修の修了者など）をもっているわけではないため、経験年数を重ねてもらえるようにしながら、資格取得への支援も行っていきたい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		・事業所内には段差がなく、車いすでも移動がスムーズにできる。 ・男女共用のトイレがある。 ・絵カードやスケジュールを貼ったりして、子どもたちがわかりやすい環境にしている。	・床がフローリングであることや机が積みあがっている等、室内の環境について考えるとこころはある。 ・フローリングの場所が多く、フロアマットなどを敷く方が安全面やリラクセスできる環境になると思う。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	1	・掃除は毎日するようにしている。 ・学習部屋や安静室があり、活動スペースとも分離ができる室内環境になっている。 ・1人で過ごせる空間がある。	・清潔は保たれていると思うが、静と動の活動、学習など、大部屋をしっかりと区切れるといい。 ・大部屋についても、活動の内容によっては区切れるようにすることも必要だと思う。 ・その時々での室内環境をどのように設定するのかが考えることが必要。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		・子どものニーズに応じて、安静室や学習部屋を使用できるようにしている。 ・個室があり、子どもが落ち着いて過ごせる空間はある。扉も完全に閉め切れないように設定になっており、常に大人の目が行き届くため、安全性の面も工夫している。	・安静室や勉強部屋など、必要に応じて使える小部屋はある。大部屋についても、必要に応じて区切り、小さなスペース作りもしたい。 ・大部屋をどのように使用していくのか、環境設定は考える必要がある。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	2	・その時々でない職員についても、個別に口頭で伝えるようにし、必要な情報については漏れがないように努力している。	・今後、ミーティングの時間をより確保できるよう、業務の進め方を工夫していく。 ・情報共有の方法を見直し、職員間での共通理解をさらに深めていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	2	・保護者からの意見等については、職員間でも共有を行い、改善をしていけるように話し合いの時間を設けるようにしている。	・保護者からの意見等に対してどのように改善していくのかに関して、考えについては職員によって差があるため、一人ひとりのスキルアップは求められる。 ・普段から職員それぞれが課題について考え、よりよくなるように改善につなげていくことは必要。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・毎年の評価表での意見だけでなく、普段の会議等の中でも職員にとってのやりやすい方法や改善すべきこと等、意見を聞く時間を持つようにしている。	・どの程度、評価表の中で考えを書けるのか、また、会議等で意見として出せるのか、職員の普段の業務の当たり方や普段の中で考えながら支援に当たっているのか問われるため、一人ひとりがスキルアップを図っていくことは必要。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	3	・法人内でのサービス向上委員会の開催。 ・委員会に参加し、自事業所を含めた各部署のヒヤリハットや苦情等について共有している。	・サービス向上委員会の中で第三者の方からの助言等については職員間で共有しているが、そのことについての各職員の意識の持ち方や普段の支援にどのようにかかっているのか、職員によっても違いがある。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		・研修の機会があり、法人内でも開催されている。 ・研修の機会については、特定の職員だけが受けるのではなく、いろんな職員が受けられるようにその都度調整している。 ・受けた研修については、職員間で共有する機会を設けている。	・今後も研修機会の充実を図り、職員の専門性向上につなげていく。 ・研修の内容に興味があったとしても、希望する職員が全員受けられるわけではない。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		・ホームページ上で公表している。 ・5領域の総合的な支援を基本として、日々の活動の中で、目的を持って活動内容の工夫をしている。	・適宜、必要に応じて見直しをしていくことは必要。 ・支援プログラムについて、職員間で共有する中で、それに基づいた日々の療育内容を考え、工夫していくためにスキルアップを図っていく。 ・保護者に対して、毎月のプログラムの案内などがあるとよりよいと思う。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		・面談の中で子どもや保護者のニーズや課題を聞き取った上で、支援計画に反映するようにしている。	・それぞれの子どもの課題をしっかりと把握するためにも、保護者との面談での情報だけでなく、日々の関わりの中で、その部分について今後も考えていくことは必要である。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		・支援会議を開催する中で、各職員からの意見や考えも聞いた中で作成している。 ・一人ひとりの児童に対してしっかりと話し合いを行えている。	・一人ひとりに対してしっかりと話し合うことはできているが、もう少し短縮してもいいのではないかと。

適切な支援の提供	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		・支援会議を開催する中で、各職員からの意見や考えも聞いた中で作成している。	・振り返りの時間を確保できるよう、業務体制の見直しを行っている。 ・日々の支援の中で疑問を感じるところや職員の中でのズレがあった時にタイムリーに発信し、そのことの共有して次につなげていく。 ・教材を作る時間が十分にもてていない。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	3	・外部の講師の先生の研修（勉強会）があり、客観的に見ることができている。	・最新の発達検査の検査結果等がもたらえていないこともあり、フォーマルなアセスメントをいかしきれていないところもある。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		・面談を通して、子どもの成長や課題について把握するようにしている。 ・支援内容は、ガイドラインに沿って作成されていると思う。それぞれの項目についても設定して作成されている。 ・計画書は綿密な掘り下げがされたもので作成されている。	・ガイドラインの中身の確認と周知は必要。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		・職員みんなで考えて実践している。 ・職員全員が内容を把握しており、休みの職員がいても、誰もが代わりにできるようにしている。 ・1ヶ月の活動内容は前月に考えており、運動系や製作系など、活動の内容はそれぞれが考えるようにしている。活動の大枠は個人が出すが、それに対してのアレンジはそれぞれの職員が意見を出しあいながら、活動を実践している。	・いろんな活動を取り入れられるように、職員それぞれのスキルアップは必要。 ・室内だけでなく、法人内にあるグラウンドや体育館をうまく活用しながら、活動内容は工夫していきたい。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		・月ごとのイベントを考えながら工夫している。 ・子どもの興味や季節感なども考えながら、マンネリ化しないように工夫している。 ・毎日同じ活動にならないようにしたり、同じ活動であっても、中身を少し変化を持たせる（ルールの追加など）ようにしている。	・いろんな活動を取り入れられるように、職員それぞれのスキルアップは必要。 ・室内だけでなく、法人内にあるグラウンドや体育館をうまく活用しながら、活動内容は工夫していきたい。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	3	3	・個別での活動、集団での活動を臨機応変に組み込んで支援をしている。 ・個別と集団の両面から考えた中で、計画書は作成するようにしている。	・日によってばらつきはある。 ・準備が間に合っておらず当初予定していたことができないこともあり、時間の確保は課題。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	2	4	・その日の活動の流れや取り組みごとについては共有をしている。 ・個別と集団の両面から考えた中で、計画書は作成するようにしている。	・その日の取り組みや流れだけではなく、それぞれにどのように関わっていくのか、細かい部分までは確認をできていないところもあり、時間の確保も含めて業務面での見直しは必要。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	4	・勤務時間の違いや送迎から戻って来る時間が一緒でないこともあり、その日の中ではできないこともあるが、翌日にすることもある。全員が戻ってなくても、その時間にいる職員で話をし、後から全体に共有する等、工夫はしている。	・休みであったり、兼務している職員もいたり、しっかりと話をし振り返りができていない時もあり、どのように時間を確保するのか、業務面の見直しも含めて考える必要あり。 ・記録や作業、環境整備等もあり、十分に時間が取れない時もある。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		・記入をするようにはしているが、十分ではない。 ・記録をとることの意識はもっており、簡潔に書くようにはしている。 ・記入することで、振り返り（モニタリング）の時の判断材料にしている。	・一部の職員の中で話で終わってしまっていて、全体への共有ができていない時もある。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		・子ども一人ひとりについてモニタリングを行っており、計画書の見直しにつなげている。	・モニタリングから支援計画の見直しにつなげるためにも、表面的に終わるのではなく、より深く考えられるようにしていく。 ・そのためにも、振り返りの時間の確保と、そこで職員それぞれが意見や考えをオープンできるようにし、支援の質の向上を図っていくことは必要。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	4	2	・日々考えながら支援を行っている。 ・法人内でのフェスティバルでの関わりや他の放課後等デイサービスとの関わりを持っている。	・4つの基本活動について、確認と共有の機会は必要。 ・今後は地域との交流の機会を増やし、より開かれた事業運営を目指していく。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		・活動場所（外か室内か）、おやつ等、自分で選択してもらっている。 ・写真や絵カード等、視覚支援を有効活用しながら、子ども自身の意思で選択できるようにしている。	・子どもの課題（苦手になっている）になる部分での自己選択についても大切であると思うが、そのアプローチの仕方は子どもに応じて様々であり、模索していくことが必要。	
	関係機関	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	2	4	・会議が開催される際には、参加するようにしている。	・今後も相談支援事業所との連携、情報共有を大切にしていきたい。
		27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	3	・必要に応じて、連携を取れる体制は取れている。 ・こども園や診療所が法人内にもあり、連携できる体制は取れている。	・今後も関係機関との連携を大切にしていきたい。
		28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	1	・お迎えに行つた際には、学校との引き継ぎは必ず行っている。デイでの様子もお伝えすることもある。 ・お迎えの時間が予定よりも遅くなってしまう時など、連絡を入れるようにしており、情報共有は大切にしている。	・今後も学校との連携や連絡調整をしっかりと行っていく。
		29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	2	・必要に応じて、行うようにしている。 ・法人内の児童発達支援から放課後等デイサービスを利用する児童もいるが、児童発達支援や認定こども園との連携は取りやすい。	・保護者との面談の中で、児童発達支援の様子や園での様子については聞くことができ、資料として持ってきてくださる方もいるため、直接連絡を取り合っ、情報を共有していないこともある。

ス ヤ 保 護 者 と の 連 携	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	3	・対象児童がいる際には提供するようにしている。 ・必要に応じて、障がい福祉サービス事業所の方と情報共有する機会もつくっている。	・卒業後の事業所や保護者に対して情報提供を行うためにも、長期的な視点を持って支援を行っていくことが必要。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	2	・外部の講師の先生の研修（勉強会）があり、その中でスーパーバイズや助言を受けることはできている。	・すべての職員が受けられているわけではなく、その内容を共有していく。 ・児童発達支援センターとの連携は取れていない。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	2	・イベントを通しての交流の機会はある。	・十分ではなく、どのように地域交流を広げていくのかは課題である。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	5	1	・淀川区の子ども支援部会への参加。	・年間を通して参加することで、今後も他事業所との情報共有を大切にしている。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		・連絡帳だけでなく、送迎時にも伝えるようにしている。簡単ではあっても、その日の子どもの様子は口頭で伝えている。	・勤務時間等の兼ね合いもあるが、保護者と話す職員が固定化してしまっているところはある。いろんな職員が保護者と話す機会があってもいい。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	1	・保護者に対して研修の案内をしている。	・保護者の予定等があわずに、参加率は少ないが、今後も情報提供は行っていく。 ・希望する保護者については、研修の資料等を配布することをしてもいいと思う。
保 護 者 へ の 説 明 等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		・時間を取って、丁寧に説明を行っている。 ・支援プログラムについてもホームページに掲載し、いつでも見られるようになっている。	・今後も丁寧な説明を心がけていく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		・面談の際に聞き取るようにしている。 ・職員間でも共有を行い、現場での支援につなげている。	・今後も面談の中で丁寧に聞き取るようにしていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		・どの保護者に対しても、支援の内容は説明して同意を得ている。	・今後も丁寧な説明を心がけていく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		・必要に応じて面談の機会を設けたり、助言を行ったりしている。 ・保護者の悩み等にも一緒に考えていく姿勢は大切にしている。 ・すぐには答えを返さないことがあっても、それを事業所に持ち帰って、現場の職員や責任者に共有する中で、改めて返答するようにしている。	・子育てに関すること等、必要な助言や支援につなげていくためにも、職員の日々の学びの姿勢は今後も大切にしていきたい。 ・そのため部署内での取り組みや研修の機会を持つ等、知識の向上を図っていくことが必要。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	6		・保護者会を開催している。 ・保護者会の中では、保護者同士が交流する時間も設けている。	・ご家庭の都合等もあり、保護者会の参加率が低いため、時期やアナウンスの仕方については考えていく必要あり。 ・頻度や内容については、保護者のニーズも踏まえて、今後も考えていくことが必要。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		・苦情については責任者に報告し、速やかに対応するようにしている。	・同じような苦情が出ないように、職員間でも情報共有を行い、改善につなげていくことは必要。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		・定期的に通信を発行している。 ・適宜、連絡事項については、連絡アプリを通して配信し、お知らせをしている。	・内容については工夫しながら、その都度考えていくことが必要。 ・頻度等については、考えていく必要あり。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		・鍵付きロッカーを使用し、管理には最大限気をつけている。 ・インシヤルでの表記をし、個人が特定されないようにしている。	・引き続き、個人情報の取り扱いについては十分に注意していく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		・絵カードや写真などの視覚支援を活用している。	・今後も子どもたち一人ひとりにあったものを考え、いいものがあれば実践していくようにする。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	1	・法人内でのフェスティバルで地域の方を招くことはある。 ・児童家庭支援センターの事業である居場所支援事業への部分的な協力をしている。	・地域住民、地域の子どものとの関わりの機会をどのように持つていくのかは課題である。
非 常	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		・マニュアルは作成して、備え付けている。 ・訓練についても、適宜行っている。	・必要に応じて、マニュアルの見直しは行っていくことが必要。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		・BCPの作成、訓練は行っている。 ・訓練についても、全職員が受けられるように日程の調整も行っている。	・訓練の内容について、どのような形での訓練、訓練内容も含めて、都度考えていく必要はある。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		・保護者に確認するようにしている。 ・面談の際、聞くようにしている。 ・発作が起こった時の対応やその際の連絡先について、まとめたものを作成している。	・発作の有無等、職員間でも引き続き共有をしていく。 ・新しく加わる職員に対しても、共有していく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1	・アレルギー等については、面談の際に確認をするようにしている。 ・その都度、保護者に確認している。	・指示書のコピー等があるわけではない。 ・アレルギーのある子どももいるので、職員間でも共有し、今後もおやつ提供や食育活動の際には、提供する食材は気をつけていく。

時 等 の 対 応	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全面には日々注意をしながら支援をしている。</li> <li>・外での活動の際には、子どもの人数確認を行うなど、職員の連携も含め、安全管理をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員一人ひとり意識の違いはあるため、普段の中でヒヤリハットを出しあうことを含め、安全面についての意識の統一を図っていくことは必要。</li> </ul>
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練等、取り組んだ内容については保護者にお伝えしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に過ごすために室内環境を含めて、都度確認をすることは必要。</li> </ul>
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒヤリハットについては職員間でも共有し、防止策を一緒に考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒヤリハットについての意識も職員によって異なるため、その部分の向上を図っていく。</li> <li>・些細なことであっても、それぞれが発信できるようにスキルアップを図っていく。</li> </ul>
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の機会は設けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も定期的な研修を実施し、職員の意識の向上を図っていく。</li> </ul>
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者にも丁寧に説明し、了解を得ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も保護者に対しては事前に説明を丁寧に行っていくと共に、現場での支援の仕方について考えていく。</li> </ul>